



勝呂クリニック 院長 **勝呂 元彦**

西宮渡辺病院開院 60 周年おめでとうございます。

今年の 1 月から西宮渡辺病院グループの 1 施設として運営を新たにスタートさせていただきました勝呂クリニックです。

私の父 勝呂隆彦と渡辺病院前理事長、渡邊高先生とは生前色々交流があり、医師会の運営に尽力されたと聞いています。極めて難易度の高い社会医療法人の認可を取得し 15 年。救急搬送受け入れ年間 3000 例。本院と循環器センター併せて 6000 例をクリアーしています。この厳しい医療行政のもとにあるにもかかわらず職員一同医療業務に専念し、患者様を大切にすることを第一に考え、日夜勉強に励む集団である。全職員 1400 人、1 眼となって日本の医療のために邁進していきましょう。

法人本部 看護部 顧問 **南口 恵子**

西宮渡辺病院開院 60 周年、西宮渡辺心臓脳・血管センター開院 20 周年、社会医療法人認可 15 周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

私が西宮渡辺病院に就職して 15 年になります。(看護部長・看護部顧問) 開院 60 周年記念式典に臨めることを、大変光栄に感じています。

入職した年は、病院創設者の故渡邊高名誉理事長から現理事長の佐々木恭子先生に交代された年でもあり、医療法人から社会医療法人に変更になった節目の年でした。理事長が就任されてからこの 15 年間、西宮渡辺病院は地域の急性期の病院として中心的役割を果たし、今なお発展を続けています。病院は常に地域の皆様の声を聴き、高齢者の生活に思いを馳せ、地域の医療ニーズを見極め「断らない医療、命を守り健康と生活を守る医療と介護」を目指し運営されてきましたので、看護部も役割を果たす努力をしてきました。

病院は幅広い医療ニーズに応えようと、毎年新館の建設及び病院の増改築を行い、新しい診療科の開設、最新の医療機械の導入、病棟再編成等体制を整えてこれ、最近外来患者数、救急患者数の増加等、病院の変化発展を強く実感しています。

私が入職して印象に残っている一つは、渡辺病院で毎年 11 月に行われている、病院創立記念の式典のことです。式典での理事長のご挨拶は、阪神淡路大震災当時の渡辺病院は、西宮の地域の多くの方の救護・避難所となり、皆さんの心の拠り所になった歴史や、これからの病院の方向性が示される場でもありました。私にとりましては、今に至るまでの病院の歴史の重みを深く感じると同時に、看護部の取り組むべき課題が明確になる機会でもありました。私が入職して以来、式典で感じた希望や誇りは今でも変わっていません。

開院 60 周年を機に、昭和・平成・令和と時代が変わっても、私たちは「敬天愛人～命を敬い人を愛する医療の実践」の先代名誉理事長の思いを受け継ぎ、地域の皆様から信頼され必要とされる西宮渡辺病院であり続けられるように、努めていかなければと改めて決意しています。

社会医療法人 渡邊高記念会が、創立 80 周年、100 周年存続し、今後益々飛躍し発展されていくことを祈念します。



法人本部 看護部 統括部長 **村上 明美**

西宮渡辺病院創立 60 周年、西宮渡辺心臓脳・血管センター創立 20 周年、ならびに社会医療法人認可 15 周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

看護部長として皆さまと共にこの節目をお祝いできますことを大変嬉しく存じます。

法人は開設以来、地域の皆さまが健やかに暮らせることを目指し、医療・介護サービスを提供してこれられました。高齢化が進む中で多様化する地域のニーズに応え、理事長は常に「何ができるか」「何をすべきか」を先見の明をもって果敢に挑戦され、その行動力に私たちは深く感銘を受けております。

今後も地域の皆さまと共に歩み、看護部一同全力を尽くしてまいります。

引き続きご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



西宮渡辺病院 看護部 部長 **毛利 京子**

西宮渡辺病院創立 60 周年、心よりお祝い申し上げます。

60 周年という年月の中で、西宮 西阪神地域の医療の中心として多くの方々命を守り、健康をささえてこれたその業績は、未来への大きな希望を示しています。

改めて、開設時の昭和 40 年以降、昭和・平成・令和と時代の変化の中で、戦後の混乱期から高度経済成長期、バブル崩壊と社会情勢も大きな変化がありました。特に医療を取り巻く環境では、近年でも、阪神・淡路大震災や新興感染症である COVID-19 の発生と大きな苦難に立ち向かい、当院では、多くの患者さんを受け入れ対応してきました。

私は当院に就職して 5 年となりますが、新棟の開設、診療科の増診と地域包括医療病棟取得、HCU 病床の増床と新たな事業に取り組んでくることができました。これも皆様のご支援と職員一人一人の熱い使命感に支えられてきたからこそと思っています。

創設時から継承されてきた「敬天愛人」の理念のもとで、今後もその思いを引き継ぎ、

地域の皆様から信頼され、必要とされる医療・看護を提供できるように取り組んでまいりたいと思います。

法人関連施設

●社会医療法人 渡邊高記念会 / 西宮渡辺病院 / 西宮渡辺心臓脳・血管センター / 西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院

西宮渡辺心臓脳・血管センター 広田クリニック / 西宮渡辺心臓脳・血管センター 東灘クリニック / 勝呂クリニック / 介護老人保健施設ハートケア西宮わたなべ

グループホームてまりの家 / 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所わたなべ / グループホーム西宮わたなべ

サービス付高齢者向け住宅ひだまり / すくすく保育 わたなべ / 訪問看護ステーション西宮わたなべ / 健康塾

通所リハビリテーション / 居宅介護支援センター西宮わたなべ / 西宮渡辺ヘルパーステーション / 西宮市中央在宅療養相談支援センター

●社会福祉法人 高明会 / 特別養護老人ホーム シルバートピア西宮 / 居宅介護支援センターはまかせ



わたなべニュースに対する皆様よりのご意見・ご感想をお待ちしております。

当院各階詰所・1F受付に設置しております 「ご意見箱」 をご利用ください。

【発行元】社会医療法人 渡邊高記念会 法人本部 【TEL】 0798-74-1771 【FAX】 0798-74-7257

【URL】 <https://www.n-watanabe-hosp.jp/>



URL

LINE

わたなべニュース

Nishinomiya Watanabe Hospital Public Relations Magazine



vol.142

2025.11.30

西宮渡辺病院 開院 **60** 周年
西宮渡辺心臓脳・血管センター開院 **20** 周年
社会医療法人 認可 **15** 周年

「理事長 ご挨拶」 社会医療法人 渡邊高記念会 / 理事長 佐々木 恭子



昭和 40 年 (1965 年)11 月 1 日初代故理事長渡邊高によって開設された『西宮渡辺病院』は 60 年周年を迎えます。

これもひとえに皆様のご支援とご協力の賜物と心より御礼申し上げます。

1965 年、許可病床数 70 床から始まった病院は 1984 年 (昭和 59 年) に医療法人高明会となり、2010 年 (平成 22 年) に社会医療法人となり渡邊高記念会と法人名を変更し現在に至っています。

2010 年 (平成 22 年)、西宮渡辺病院は救急要件をみたし兵庫県で初めての社会医療法人認可を得ました。2006 年開設の心臓脳・血管センターも 2017 年に救急要件を、更には 2020 年からは県内養父市八鹿病院への循環器内科医師の派遣によりへき地要件も満たして社会医療法人認定病院となっています。

60 周年を迎える「西宮渡辺病院」、20 周年を迎える「西宮渡辺心臓脳・血管センター」、私共は同一医療圏内に異なった役割を持つ二つの社会医療法人認定病院を持ち互いに連携をし各々が各々の役割で地域の救急医療の要請に応えている全国的にも稀有な法人です。

初代創設者故渡邊高の地域医療への思いを継承した私共は活動の場をこの阪神間 (西宮芦屋地域) に集中、その時代にあって最善で最良の地域医療の提供するために変革と努力を積み重ねてきました。

「病院はいかなる場合も門を閉ざさず、今できる最善を尽くそう。」

創設者のこの思いはあの大自然災害、阪神淡路大震災においても、更にはここ数年続いた新興感染症パンデミックのコロナ禍に於いても引き継がれ私共法人が様々な意思決定を行う原点となっています。

30 年前に阪神淡路大震災を体験した私共にとって高度急性期医療を行う心臓脳・血管センターの開設は必然でした。

法人にとっての被災体験は市内医療機関の中で最も多くの死亡診断書を発行した悲しさと苦しさを伴う体験です。

初代創設者の医療人としての集大成として更には我々がこれからも急性期医療に邁進する決意表明として 2006 年 (平成 18 年) に完成をしたのが西宮渡辺心臓脳・血管センターです。

2014 年からは救急車に伴走するラピッドレスポンスカーを導入、2019 年には市内唯一の IMPELLA(補助循環用ポンプカテーテル) 実施施設となり地域の急性心筋梗塞や大動脈解離手術などの救命率の向上に寄与しています。

昨年 2024 年には西日本の民間病院では初めてとなる Photon-counting CT を導入し現在に至っています。

センターと同時に開設した老健 (ハートケア) は現在は場所を市内前浜町に移し、同一建物内に開設した「脳卒中中心臓リハビリテーション病院」との連携で在宅強化と看取りの役割を担っています。

今年開設 60 周年を迎える西宮渡辺病院は時代の要請に応え変革を続けてきました。

2018 年からは法人の在宅支援強化の方針に合わせて訪問看護や訪問リハビリだけではなく、訪問診療、訪問薬剤指導、訪問栄養指導のできる「在宅支援病院」になりました。

2009 年 (平成 21 年) には人工関節センターを、2020 年 (令和 2 年) には脊椎センターを院内に開設、更には外傷、骨折への取り組み強化を行い、整形外科は現在は総勢 13 名体制で専門性の高い診療を行なっています。2021 年 (令和 3 年) からは病院全体の増改築工事に着手、2023 年に完成した新棟では、新たに耳鼻咽喉科、眼科、歯科口腔外科の診療を開始、外来部門の全面改修が完成した 2025 年 4 月からは泌尿器科、婦人科を含め新たな診療体制をスタートさせました。

現在は手術件数の増加と次年度早々のダ・ヴィンチ (手術支援ロボット) 導入に合わせて手術室の増室と HCU の増床の工事を行っており、今年度中には HCU24 床、地域包括医療病棟、回復期のリハビリテーション病床を持つ 190 床の病院となる予定です。

今現在医療現場には逆風が吹き荒れており「あなたの通い慣れた病院が突然なくなる」、全国各地でそんな言葉が聞こえてくる時代です。国民皆保険制度を信じてきた我々がこの制度に、翻弄される日々を過ごしています。

人口減少の勢いは止まらず毎年 80 万人が減少する中で活路を見いだすのは大変です。

この困難な時代にあって私達に勇気と自信を与えてくれるのは様々な苦難を乗り越え現在に至った法人のあゆみです。

積み重ねてきた 60 年の歴史は明るい未来を信じる為の大切な糧にもなっています。

“For Community Health”

“With patients, for patients”

これからも地域になくてはならない病院であり続けるために、更なる努力を決意しています。

皆様の暖かいご支援を心よりお願い申し上げます。





Photon-counting CT導入、ハイブリッド手術室 更新

令和5年

- 令和7年4月 脳神経外科 新体制スタート
- 令和6年9月 ハイブリッド手術室入れ替え
- 令和6年7月西宮渡辺病院：外来診察室工事完了。
- 令和6年5月 Photon-counting CT「NAEOTOM Alpha」導入
- 令和5年11月許可病床数184床から180床へ変更
- 令和5年11月 許可病床数108床から112床へ増床
- 令和5年10月 新棟完成し、新たに耳鼻咽喉科・眼科・歯科口腔外科の外来診療が開始
- 令和4年4月 西宮リウマチ・膠原病センター開設
- 令和4年4月 増山理 管理者就任、渡邊慶明 副管理者就任
- 令和3年10月 電子カルテシステム入替
- 令和3年9月 手術室を1室増設し、3室体制になる
- 令和2年11月 TAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)の施設認定
- 令和2年10月 西宮脊椎センター開設
- 令和2年5月 厨房業務の直営化
- 令和2年6月 新棟「健康館」完成(第3アンギオ室、エコーセンター、健康テラス開設)
- 令和2年4月 新型コロナウイルス陽性患者の病床確保、帰国者・接触者外来、発熱外来設置
- 令和1年10月 第3手術室増設・IMPELLA(補助循環用ポンプカテーテル)実施施設認定
- 令和1年9月 医療情報総合システム(新PACS)を導入
- 令和1年9月 検体検査システムのオートメーション化実施、CT装置「SOMATOM go. Top」導入
- 平成30年6月 西宮渡辺心臓脳・血管センターへ名称変更
- 平成30年7月 西宮渡辺病院 在宅支援病院に認定
- 平成30年4月 許可病床数100床から108床へ増床
- 平成28年8月 日本医療機能評価機構3rdG：Ver1.1認定
- 平成29年7月 MRI2台体制導入 「MAGNRTOM Skyra 3T」導入
- 平成29年5月 第1アンギオ室入れ替え 「Artis zee BC PURE」
- 平成29年4月 社会医療法人救急医療事業認定病院 認定
- 平成28年4月 許可病床数92床から100床へ増床
- 平成27年9月 不整脈外来、下肢静脈瘤外来 開始
- 平成27年7月 脳外科・脳卒中センター開設、第2アンギオ室新設、SCU(6床)開設
- 平成27年6月 ラビッドレスポンスカー 365日24時間運用開始
- 平成27年5月 1階フロア改修工事完了、ハイブリッド型手術室入れ替え
- 平成27年2月 2管球搭載心臓CTスキャナー SOMATOM FORCE導入
- 平成26年9月 地域包括医療ケア病床 包括医療ケア病棟 開始
- 平成26年4月 ラビッドレスポンスカー(rapid Response car)導入／不整脈アブレーション治療開始
- 平成26年9月 精円ボア搭載型MRI echelon OVAL導入
- 平成26年4月 腹腔鏡センター開設
- 平成25年10月 電子カルテシステム入れ替え
- 平成25年7月 吉川純一最高顧問就任、山室淳院長に就任
- 平成25年4月 許可病床数52床から92床へ増床／脳血管センター開設
- 平成25年4月 光トポグラフィー検査機器導入
- 平成24年6月 低体温療法装置Arctic Sun 500 導入
- 平成23年8月 日本医療機能評価機構認定
- 平成23年4月 許可病床数40床から52床へ増床／2次救急医療機関指定
- 平成22年10月 吉川純一院長就任、ハイブリッド型手術室導入／血管エコー外来開始
- 平成22年4月 DPC対象病院 許可／睡眠時無呼吸外来・禁煙外来開始
- 平成20年9月 特定集中治療管理室管理料(ICU)施設基準取得
- 平成20年8月 救急告示病院
- 平成20年7月 DPC準備医療機関
- 平成20年6月 特定集中治療管理室(2階病棟)オープン
- 平成20年4月 救急24時間対応開始
- 平成20年4月 DPC対象病院認可(西宮渡辺病院)
- 平成19年9月 開胸・開心手術開始
- 平成19年5月 救急対応開始
- 平成18年9月 3階病棟オープン入院診療開始／許可病床数40床
- 平成18年6月1日 西宮渡辺心臓脳・血管センター開院
- 平成16年3月 最新マルチスライスCT導入
- 平成15年10月 日本医療機能評価認定機構受審(更新)
- 平成10年9月 2階病棟を療養型病床群に転換(40床)
- 平成10年6月 日本医療機能評価認定機構認定
- 平成6年9月 救急医療機関告示認定
- 平成6年6月 病院整備事業 建替工事 完成(許可病床142床)
- 平成3年7月 循環器科 開設
- 平成2年4月 病院整備事業 建替工事 着工
- 昭和62年9月 精神科・神経科 開設
- 昭和51年9月 CTスキャナー導入
- 昭和49年3月 脳神経外科開設
- 昭和48年12月 第3期工事完了(許可病床142床)
- 昭和47年7月 病院名称変更し西宮渡辺病院になる
- 昭和41年8月 第2期工事完了(許可病床数95床)
- 昭和40年11月 渡辺病院開設(許可病床数70床)
- 昭和40年11月 内科・消化器化・外科・整形外科・理学診療科 開設



3テスラ MRI Magnetom Lumina



TAVIチーム



新型デュアルソースCT SOMATOM Force



ラビッドレスポンスカー
消防機関から通報を受けると同時に医師と救急資器材を搭載したドクターカーを出動させ現場に向かい、重症患者に病院到着前から迅速な医療行為を行います。

理 念

『敬天愛人』 ～心通い合う医療の提供～

当法人は誠心誠意医療に携わり、信頼でき安心できる病院として
地域の人々の健康と福祉に貢献します。

職員は生命の尊重と人間愛とを基本とし、常に奉仕の精神を忘れず、
医療の質の確保と向上に努めます。

令和7年1月 勝呂クリニックが法人の一員として加わる

令和6年 日本医療機能評価機構による病院機能評価 3rdG:Ver.3.0 認定

令和6年4月 西宮わたなべ内科・心臓リハビリクリニック
「西宮渡辺心臓脳・血管センター 広田クリニック」へ名称変更

令和6年4月特定行為研修指定研修機関として指定
医療人材開発センター開設

令和4年4月 西宮渡辺心臓脳・血管センター 増山理 管理者就任、
渡邊慶明 副管理者就任

令和3年11月 西宮渡辺心臓脳・血管センター東灘クリニック
山室淳 院長就任 開設

令和3年10月 電子カルテシステム入替(3病院)

令和3年1月 西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院
形成外科・美容医療センター OPEN

令和2年6月 西宮渡辺心臓脳・血管センター新棟「健康館」完成

令和2年3月 市立芦屋病院連携協定

令和2年3月 兵庫県養父市とへき地医療支援で連携

令和2年1月 訪問看護ステーション西宮わたなべ、居宅介護支援センター
西宮わたなべ、グループホーム西宮わたなべに施設名称変更

令和1年11月 西宮わたなべ訪問リハビリステーション開設

平成30年6月 西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院 開院

平成29年4月 社会医療法人救急医療事業認定病院 認定
(西宮渡辺心臓・血管センター)

平成25年7月 西宮渡辺心臓脳・血管センター
吉川純一最高顧問就任、山室淳院長就任

平成25年2月
介護老人保健施設ハートケア西宮渡辺移転、
ハートケア西宮わたなべ福祉の郷開設

平成25年1月 佐々木健陽院長就任

平成24年1月
西宮渡辺ヘルパーステーション開設

平成22年4月 社会医療法人兵庫県初認可
法人名を「高明会」から「渡邊高記念会」へ
佐々木恭子理事長就任、蓮池康徳院長就任

平成22年1月 回復期リハビリテーション病棟を開始(40床)

平成21年4月 西宮人工関節センター開設(西宮渡辺病院内)

平成18年 42条 疾病予防運動施設 健康塾開設

平成18年6月 西宮渡辺心臓・血管センター 開設

平成18年5月 介護老人保健施設ハートケア西宮渡辺 開設

平成15年11月 グループホームむろかわ 開設

平成15年9月 居宅介護支援センターむろかわ 開設

平成13年2月 特別医療法人 認可

平成11年7月 訪問看護ステーションむろかわ 開設

昭和59年12月 『医療法人高明会
西宮渡辺病院』として法人化

昭和60年

昭和40年

平成10年

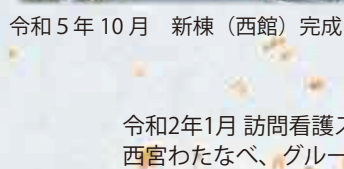
平成20年

平成25年

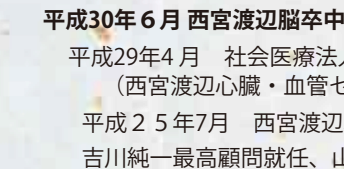
令和元年



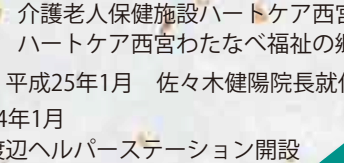
令和5年10月 新棟(西館)完成



令和2年3月 市立芦屋病院連携協定



平成30年6月 西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院 開院



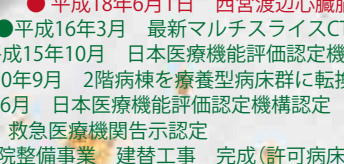
平成25年7月 西宮渡辺心臓脳・血管センター 吉川純一最高顧問就任、山室淳院長就任



平成22年4月 社会医療法人兵庫県初認可 法人名を「高明会」から「渡邊高記念会」へ 佐々木恭子理事長就任、蓮池康徳院長就任



平成18年6月 西宮渡辺心臓・血管センター 開設



平成15年11月 グループホームむろかわ 開設



平成11年7月 訪問看護ステーションむろかわ 開設



昭和59年12月 『医療法人高明会 西宮渡辺病院』として法人化



第3期工事完了(許可病床142床)



渡辺病院開設時の全景



和40年11月 渡辺病院開設



人工関節センター手術風景



心臓脳・血管センター手術風景

社会医療法人 渡邊高記念会 60年のあゆみ

● 西宮渡辺病院のあゆみ

● 西宮渡辺心臓脳・血管センターのあゆみ



平成22年4月 兵庫県健康福祉部健康局にて
社会医療法人の認定証授与(兵庫県初認可)



西宮渡辺脳卒中・
心臓リハビリテーション病院 開院



西宮渡辺心臓・血管センター 開設

60周年記念式典を開催しました

去る令和7年11月15日、ホテルオークラ神戸にて

西宮渡辺病院開院60周年、西宮渡辺心臓脳・血管センター開院20周年、並びに**社会医療法人認可15周年**を記念いたしまして、式典・講演会ならびに祝賀会を開催いたしました。ご来賓を含め350名近い方にご参集賜り、盛会のうちに執り行うことができました。

式典では特別講演として、免疫抑制療法に代わる次世代の移植医療として注目される「免疫寛容誘導」の研究で世界的に知られる**ハーバード大学外科教授 河合 達郎先生**をお招きして『**ブタが人類を救う 日本の救世主となるか？**』のテーマで大変興味深いご講演を賜りました。河合先生は、米国マサチューセッツ総合病院レゴレッタ臨床移植免疫寛容センターの初代所長にも就任され、移植医療の臨床と研究の両面で国際的な先導的役割を果たされています。

60周年記念事業の講演として、日本赤十字社大阪赤十字病院薬剤部主任 兼 国際医療救援部薬剤師の**仲里 泰太郎 先生**より『**災害・紛争地で薬剤師に何ができるのか？赤十字のミッション**』のテーマでご講演いただきました。

また、多くの来賓の方々からご挨拶ならびにご祝電もいただきました。

今回は、ご来賓を含め350名近い方にご参集賜り、盛会のうちに執り行うことができました。

これもひとえに皆様のご支援とご協力の賜物と、心より感謝申し上げます。



社会医療法人 渡邊高記念会 60周年記念 ご挨拶



副理事長 兼 西宮渡辺病院 管理者 佐々木 健陽

皆さまには、日頃より本法人ならびに西宮渡辺病院への多大なるご支援とご協力を賜り、心より感謝いたします。

私は、昭和63年（1988年）4月西宮渡辺病院に入職いたしました。整形外科部長として渡邊高先生のご指導を仰ぎながら臨床とリハビリテーションに携わり、その後、副院長、院長、そして法人副理事長、病院管理者として三十余年にわたり本法人と歩みを共にしてまいりました。

この歩みは、多くの方々のご縁に支えられたものであり、改めて深く感謝申し上げます。

また、1995年の阪神・淡路大震災では、病院としても私個人としても大変厳しい状況に直面いたしました。皆さまのお力添えとつながりによって困難を乗り越えることができました。その経験は今日の私の糧となり、今なお地域医療に向き合う原動力となっております。

この度、病院開院60周年、心臓脳・血管センター開院20周年、法人認可15周年という大きな節目を迎えられることは、ひとえに皆さまの温かいご支援の賜物と存じます。これから出会うであろう新たなご縁を大切に、地域の皆さまに最良の医療をお届けできるよう、職員一同一層努力を重ねてまいります。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

社会医療法人 渡邊高記念会 60周年記念 ご挨拶



副理事長 兼 西宮渡辺心臓脳・血管センター 副管理者 渡邊 慶明

2025年、設立60周年を迎えることができました。これもひとえに皆さまのあたたかいご支援の賜物であり、心より御礼申し上げます。1965年、祖父は高い志のもと西宮に西宮渡辺病院を設立しました。

先日、アルバムを整理していると創立時の西宮渡辺病院の写真が出てきました。今の感覚では有床診療所程度の大きさで、周りに田んぼしかない状態でした。当時の祖父にはなんの勝算もなかったと思います。設立当時の「決して門を閉ざさず今できる最善を尽くす」という思いは今も続いています。

1987年、西宮で起きた日本の近現代史において唯一、言論機関に対するテロ襲撃で記者が死亡した阪神支局襲撃事件においても、怪我をした記者の受け入れを行いました。現在阪神支局の資料館の入口に、この事件の唯一の生存者である犬飼記者の散弾が打ち込まれたレントゲン写真が飾られています。これは、西宮渡辺病院の佐々木管理者が、治療に関わった際に撮影されたものです。

1995年、阪神・淡路大震災では、周辺で唯一機能した病院として多くの地域住民の受け入れを行いました。西宮市で最も多くの患者を受け入れ、死亡診断書を多く書いたのは当院です。

こうした経験は、医療体制の課題を浮き彫りにし、後の挑戦につながります。

震災から10年後の2006年、阪神間で初めてであり唯一である循環器と脳血管の専門病院「西宮渡辺心臓脳・血管センター」を設立しました。当時、阪神間には急性期の循環器の治療を行える施設、治療後の患者を受け入れる施設がありませんでした。「大阪であれば助かる人間が西宮では助からない」という現実を憂いた祖父の思いを現理事長が形にしたものになります。当時は医療崩壊が叫ばれる状況にあり、当法人の規模で循環器専門病院を経営するのは無謀ではないかと囁かれる状況でありましたが、現在では民間でも珍しいフルスペックの脳循環器病院として、PCI件数は年間500件を超え、アブレーションは420件（2024年）という、近畿圏でも件数を誇る病院となっています。とくに、PCIのうち緊急PCIは181件と、関西はおろか全国的に見ても屈指の実績です。

2019年に始まった新型コロナウイルス感染症の流行に際しても、当院は阪神間で最も早く、そして最も多くの患者を受け入れた医療機関の一つとなりました。

受け入れ開始当初は、感染症患者を受け入れた病院が風評被害に遭い、公的支援もほとんど存在せず、民間はもとより公的医療機関でさえ受け入れを避けていた状況でした。

そのような中、「未曾有の事態で公的機関ですら判断ができずにいる状態だからこそ、我々が動かなければならない」という理事長の強い意志のもと、コロナ患者の受け入れが始まったのです。ダイヤモンド・プリンセス号での対応経験を有する佐々木現副院長の指導もあり、当法人は一步も引かず、地域医療の最前線で立ち向かい続けました。

私は、そのような歴史を間近に見て育ち、2020年より当法人の副理事長として法人運営に携わっております。幼少の頃から見てきた「現場の覚悟」は、実際に担うと想像をはるかに超える重責でした。

思いの重さに押しつぶされそうになっている中、心臓脳・血管センター院長の増山先生、顧問の赤坂先生、本病院長の猪熊先生をはじめ、以前からお世話になっていた、岡山大学の清水先生、大阪大学の澤先生、岡山大学の笠原先生、兵庫医科大学の坂口先生、池田先生、神戸大学の村上先生、そして京都府立医科大学の的場先生、滋賀医科大学の今井先生、中央市民の木原先生、大阪医科大学の星賀先生、兵庫医科大学脳外科の吉村先生、大阪公立大学の大畑先生など多くの方のご助力を得ることができました。

私の就任後、多くの大学との連携が強化され、専攻医の受け入れを開始することができました。また、地域枠も含め多くの初期研修医の受け入れも行っています。さらに、本院・センターともに新館を増設し、大型医療機器も導入することもできました。本院ではMRIを3Tに更新し、センターでは近畿の民間病院として初めてフォトンカウンティングCTを導入しました。本院では来年度最新型の手術ロボットであるダ・ビンチを導入予定です。地域において、公的機関に依存しない、民間の医療機関として、この先も独立独歩の前進を続けていく決意です。

挑戦を積み重ね続ける当法人ですが、私たちを取り巻く環境は厳しさを増しています。しかし当院の歴史が示すように、「決して門を閉ざさず最善を尽くす」という精神があれば、必ず道は拓けると信じています。この精神を胸に、これからも地域に根ざした医療を守り続けてまいります。どうか今後とも、60年前に生まれたこの志に変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



副理事長 兼 西宮渡辺病院 副院長 佐々木 俊治

皆様の温かいご支援のおかげで、西宮渡辺病院は開院60周年を迎えることができました。心より感謝申し上げます。

西宮渡辺病院は1965年、東京オリンピックの翌年に、祖父で初代理事長の渡邊高により西宮市室川町に開院いたしました。救急診療を核とする70床の病院としてスタートし、地域の皆様の声に耳を傾けながら徐々に診療の幅を広げてまいりました。

現在では、3つの病院を含む20の施設を擁し、高度急性期医療から介護まで幅広いサービスを提供する医療グループへと成長いたしました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と、深く感謝しております。

規模は大きくなりましたが、創設以来の「地域で得たものは地域に返す」「地域のために何ができるか考え続ける」という理念は変わることなく、高い医療水準を目指し、地域への貢献を続けております。医療機器においては、阪神地域でいち早くCTを導入したことを皮切りに、

現在でもPhoton counting CTやロボット手術の導入など、常に最先端の医療技術を追求しています。

また、地域で求められることには可能な限り応え、様々な困難に立ち向かってまいりました。朝日新聞阪神支局襲撃事件の被害者対応、阪神・淡路大震災での救急医療、新型コロナウイルス感染症への対応など、地域の危機に際して尽力してまいりました。こうした対応に対し、地域の皆様から多くの感謝の言葉をいただきましたが、同時に私たちには多くの無念も残りました。

この60年間、私たちはその無念を解決するために進化を続けてまいりました。阪神大震災で命を救えなかった無念から、西宮渡辺心臓脳・血管センターを設立し、命に直結する疾患の治療体制を強化しました。また、西宮市でほぼ初めてのコロナ患者様に対応した経験を活かし、補助金決定前からリハビリテーション病院を全てコロナ病床に転換し、発熱外来を開設し、他院で受け入れられない患者様を積極的に受け入れてまいりました。さらに、心疾患をお持ちの方が心疾患以外の治療を受けられる場所が少ないという課題に対し、本院とセンターが連携し、新しい透視装置やハイブリッド手術室を活用して整形外科手術などを開始しています。

私が前職でクルーズ船からの乗客受け入れに始まったコロナ対応を経験し、西宮渡辺病院に戻ってきたのは2022年の未だコロナ禍の最中で病院に馴染む余裕もなく感染症専門医としての役割に邁進するスタートでした。当時は父から、そして今年からは神戸市立医療センター中央市民病院 木原院長のご配慮を頂き、同院の消化器内科部長・副院長でいらしゃった猪熊先生を院長にお迎えして様々な学ばせていただく日々を送っています。

様々な場面の中で祖父の時代から続くこの病院に対する地域の方からの信頼を感じると共にこの歴史を継承する事の大切さを感じています。今後も、良い医療を目指して精進していきたく思っております。

どうぞ末永く皆様のご支援とご協力がいただけますことを心よりお願い申し上げます。



理事長補佐 兼 心療・神経科部長 佐々木 祥子

西宮渡辺病院開院60周年、西宮渡辺心臓脳・血管センター開院20周年、社会医療法人の認可から15周年という節目を迎えることができました。関係者の皆様の温かいご支援のおかげと心より感謝申し上げます。

当法人は私の祖父である渡邊高が創設しました。幼少期から慣れ親しんだこの法人は、私の医師になる原点であり、大好きだった祖母との思い出がたくさん詰まった場所です。いつもそばにあり、うまくいかない時には戻ってこられる、そしてまた頑張ろうと思える、大切な存在です。当法人が多くの皆様のおかげで患者様に必要とされ続けていることに改めて深く感謝申し上げます。

今後も、法人に関わる全ての職員にとって、患者様にとって、ここに来れば安心できる、そんな安全基地のような医療法人を目指して、法人の発展に尽力して参ります。

変わらぬご支援とご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

社会医療法人 渡邊高記念会 60周年記念 ご挨拶



西宮渡辺病院 院長 猪熊 哲朗

この度、社会医療法人渡邊高記念会 西宮渡辺病院は開院60周年、西宮渡辺心臓脳・血管センターは開院20周年を迎えることにしました。日頃より、病院運営・診療にご協力いただいております皆様に、心より感謝申し上げます。「敬天愛人〜命を敬い人を愛する医療の実践」を病院の理念として、地域の皆様の健康を支えるために、西宮市室川町に開院した本院は、一般病床140床、HCU16床、回復期リハビリテーション病床24床を有し、急性期からリハビリ・回復期まで切れ目ない医療を提供してまいりました。西宮渡辺心臓脳・血管センターとも密接に連携し、阪神西地区の救急医療を担ってきた実績もあります。法人内には、リハビリテーション病院・老健施設・特別養護老人ホーム・グループホーム・訪問看護ステーションなどもあり、医療から介護・在宅支援までカバーしております。

今後、日本全体において超高齢化社会を迎えて、地域に密着した医療・介護はますます重要となります。当院は、これからも地域の皆様になくてはならない医療セフティネットとして使命を果たしてまいります所存です。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



西宮渡辺心臓脳・血管センター 管理者兼院長 増山 理

このたびは、西宮渡辺病院開院60周年、西宮渡辺心臓脳・血管センター開院20周年、ならびに社会医療法人認可15周年、おめでとうございます。私が西宮渡辺心臓脳・血管センターと初めて関わったのは今から20年前、開院の時です。私が主宰しておりました兵庫医科大学循環器内科教室から開院時には複数の循環器内科医を派遣させていただきました。当時ベッド数は数十床でしたが、最新鋭の診断機器（透視装置、CT、MRI、超音波診断装置など）を揃えられており、また機能的な集中治療室を有しており、魅力的な施設だと感じておりました。ただ、20年でこのような施設にまで発展するとは当時予想もしませんでした。今後の益々の発展を祈念いたします。



西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院 管理者兼院長 槌田 昌平

西宮渡辺病院開院60周年ならびに西宮渡辺心臓脳・血管センター開院20周年、誠にありがとうございます。私は1999年に脳神経外科医として西宮渡辺病院に着任し16年間、その後は心臓脳・血管センターで6年間勤務し、2020年からは前浜の複合施設に勤務しております。振り返れば、当法人とともに成長してきた四半世紀であり、医療者としてのキャリアを積んできた年月であったと感じています。在りし日の渡邊高先生のもとで、医療に向き合う姿勢や考え方を学ばせていただいたことは、今も私の礎となっています。当法人のこれまでの歩みに心より敬意を表するとともに、今後も法人全体のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。



西宮渡辺病院 整形外科 顧問 高岡 邦夫

西宮渡辺病院本院開設からの60周年また西宮渡辺心臓脳・血管センター開設20周年を心からお祝いを申し上げます。西宮渡辺病院開設者で初代理事長の（故）渡邊高先生と先生のよき援護者であられた奥様は陰ながら大きな満足をもって祝っていることと思います。渡邊高先生は病院の理念として西郷隆盛が信条としていた「敬天愛人」をきっかけ、緒方洪庵が推奨した医業に携わる者のための生活指針として推奨した「扶匡医戒之略」を医局に掲示されていたことなどから医療者に求められる「志」や「倫理」を大切にしていた方であったと思われます。その信条は現理事長始め職員に受け継がれて現在の病院の発展に繋がっているのでしょう。

西宮渡辺病院は長年に亘って地域社会の医療に貢献して、広く地域住民に受け入れられてきたのですが、特に平成7年の阪神大震災では西宮渡辺病院が地域居住者の方々の救済に大きな貢献をされたと聞いています。病院が耐震建築に改築されて間もない時期であったことから、被害が少ない病院の建物で地域救済のために大いに活躍されたとのこと。先生は震災直後の断水で多くに人たちが苦難苦悩されたのことを憂い、その経験から、震災後に将来の災害に備えて病院の裏門に地下水の給水設備を近隣住民のために設置されました。医療を超えた地域対策をなされた訳で、渡邊高先生が地域住民の生活維持への貢献に熱心であったことが窺えます。また先生によって設立された近代設備を備えた心臓血管センターでも地域貢献への思いが強く窺えます。死に直結する急性心臓血管障害の高度救急治療は救急医療の一つの要であり、一民間病院として、経営上のリスクを顧みずにこれに取り組まれた先生の強い心意気を感じられます。これらの事例は60年の歴史の中で築かれた硬い基礎をつくられた渡邊高先生に大きな業績であり、晩年の先生を記念する残されたモニュメントでしょう。深い敬意を感じます。心臓血管センター（現心臓脳・血管センター）はその後、現在の佐々木理事長に受け継がれましたが、開設当初から運営を軌道に乗せるまでには多々困難があったことと思います。しかし、佐々木理事長のご活躍奮闘によって諸々の困難は克服され、順調な軌道に乗せて、今では高いレベルの循環器医療が日々行われ地域住民の信頼を集める高度医療機関となっていると思います。私が知る限り、この業績は60年の西宮渡辺病院の歴史上特筆すべきことと思います。また最近では本院の増改築と診療科の大幅な拡充され、それに伴って医局員はじめ従業員の大幅な増員があり、さらに病院での各診療科の専門性のレベルアップの努力も際立っています。レベルの高い多くの専門医の招聘や連携を実現されています。これらの精力的な改革を実現している佐々木理事長に心からの敬意を捧げます。西宮渡辺病院の着実な発展を目の当たりにできた大変幸でした。

記念すべき60周年以後の西宮渡辺病院とその関連施設の今後の大発展に大いに期待しています。医療機関の発展の模範として米国のMayo Clinicがよく語られます。一人の外科医Mayo先生と二人の青年医師の息子によって設立運営された田舎の診療所から発して世界一の私立病院に発展した米国ミネソタ州のMayo Clinic。現在ではMayo Clinicは名実ともに世界一の病院とされています。その医療の理念は「個々の患者が満足する医療サービスの提供」であり複数の医療部門がチームで患者に対応する、所謂チーム医療です。その提供される満足される医療サービスは慰め中心の医療ではなく、その時々最新の知識、技術によるものであることが求められています。また診療上の新たな問題点があればその解決のための集積された診療記録に基づいた研究も求められています。また、獲得した新しい知識や技術は常に後進に伝承することも求められています。つまり望ましい医療従事者は最新知識に基づいた診療のみならず、問題解決に向けた研究、新しい知識技術の伝承教育が求められるということでしょう。それらの実現には医学の発展への向上意識を持った人材の招聘や育成が必須であり、その結果として、向上心あふれる若い医師、研究者が集まり、その後の病院の発展に寄与するといった成功への過程が実現されたとのこと。つまりは医療機関としての病院の発展とは組織規模の拡大や目先の収益の拡大のみでなく、長期的には弛まぬ研究推進と医療従事者の教育活動継続を忘れてはならないということでしょう。社会医療法人渡邊高記念会関連施設の経営に担う次の世代の経営者の方々にはこの前例と教訓を頭の片隅に置いていただければと思います。

改めて社会医療法人渡邊高記念会グループの末永い大発展と更なる社会貢献を期待しております。



西宮渡辺病院 副院長 正田 悦朗

西宮渡辺病院開院60周年、西宮渡辺心臓脳・血管センター開院20周年、ならびに社会医療法人認可15周年おめでとうございます。このような、節目の時に在籍しており非常に感慨深い思いです。以前勤務していた県立西宮病院整形外科の時にも、早急な手術が必要な患者様を佐々木健陽元院長にお願いしたり、心血管系の疾患やMRI撮影を心臓脳・血管センターにお願いしており、非常に頼りになる病院でした。今後も地域の患者様がだけでなく、地域の医療機関からも信頼される病院であり続けられますことを祈念いたしますとともに、私自身も病院の一員として努力していきたいと思ひます。



西宮渡辺病院 リウマチ膠原病センター センター長 船内 正憲

60周年おめでとうございます。西宮渡辺病院がこの地域の医療の要として、幾多の命と向き合い、これを支え続けて来られたことに心から敬意を表します。今、自分もその一員でおられることを大変誇らしく思います。開院された昭和40年は巳年（みどし）だった様ですが、治癒と再生の象徴であるアスクレピオス（ギリシャ神話の医神）の杖に巻き付いているのが「蛇」ということに神がかりを感じます。

高齢化、インフレ、医療制度の締め付けなど、多くの障壁が立ちはだかる昨今ですが、これからも、より一層のご発展とご活躍をお祈り申し上げます。



西宮渡辺病院 人工関節センター 顧問 福岡 慎一

この度は西宮渡辺病院開院60周年、西宮渡辺心臓脳・血管センター開院20周年、ならびに社会医療法人認可15周年、誠にありがとうございます。本院整形外科は佐々木健陽先生が1988年に整形外科部長として赴任し礎を築き、徐々に拡大されてきました。2009年4月には大阪市立大学整形外科高岡教授を退官と同時に整形外科に招聘し、現在も抄読会、カンファレンスあるいは英語論文添削などにおいて世界的視野で指導されています。同時に福岡が西宮人工関節センターを開設、2020年10月には山下先生が西宮脊椎センターを開設、2022年4月には正田先生が県立西宮病院より当院に副院長として、2024年4月より安原部長が赴任され、外傷外科分野でより専門性の高い医療の提供が可能となりました。2023年2月より肩関節の分野では日本のリーダー的存在の滋賀医科大学今井教授の外来、手術が開始されています。現在、本院整形外科では外傷、関節外科、脊椎外科、肩関節外科の分野で専門的治療が可能となっております。麻酔科により周術期の痛みを抑えてリハビリテーションが可能となり、内科、外科に加えて婦人科、耳鼻科、泌尿器科、眼科、歯科などが開設されたため合併症のある患者に対しては相談あるいは共観としていただけるため、安心して手術に臨めるようになっていきます。これからも、本院整形外科では全員が力を合わせて頑張ってくださいますので、よろしくご指導、ご鞭撻をお願いいたします。



西宮渡辺心臓脳・血管センター 循環器内科特別顧問 赤阪 隆史

西宮渡辺病院開院60周年ならびに西宮渡辺心臓脳・血管センター開院20周年・社会医療法人認可15周年、おめでとうございます。佐々木恭子理事長はじめ社会医療法人渡邊高記念会の関係者の皆様方に心からお祝い申し上げます。昭和40年11月に病床数70床の渡辺病院として内科・消化器科・外科・整形外科・理学診療科を開設され、平成18年6月に西宮渡辺心臓脳・血管センターの前身として心臓・血管センターを、そして平成25年4月に脳血管センターを開設され、平成22年4月には兵庫県で初めて社会医療法人の認可を受けられ、「渡邊高記念会」グループは西宮市を中心とした地域医療の最も重要な担い手として発展してこられました。大変喜ばしいことに、本年は西宮渡辺病院開院60周年・西宮渡辺心臓脳・血管センター開院20周年・社会医療法人認可15周年と記念すべき年が重なり、その祝賀の好機にかかわることができることを大変光栄に存じます。先代からの「命を敬い人を愛する医療の実践」という「敬天愛人」という理念を引き継がれるだけでなく、さらに大きく展開され発展されてこられた佐々木理事長はじめ法人関係者の方々のこれまでの努力に敬意を表するとともにあらためてお祝い申し上げます。また、本日の記念式典により、これまで以上の重責を引き受けられる皆様方の強い思いに敬服いたします。医療行政の大変厳しいなかで関係者の皆様方の秀でた見識とたゆまぬ研鑽により社会医療法人「渡邊高記念会」の各医療施設がさらなる発展をされ成長されていかれることを祈念申し上げ、祝辞とさせていただきます。



西宮渡辺心臓脳・血管センター 副院長 兼 内科診療部長 合田 亜希子

このたび、西宮渡辺病院開院60周年、心臓脳・血管センター開院20周年、さらに社会医療法人認可15周年という節目を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。私は入職してまだ4年目ですが、日々の診療を通して長い年月をかけて築かれてきた当院の温かな雰囲気と、患者さんに真摯に向き合う姿勢を強く感じています。多くの先輩方の努力と地域の皆さまの信頼がいまの病院を支えていることを改めて実感し、この素晴らしい伝統とチームワークを大切にしながら、自分にできることを積み重ねていきたいと思ひます。これからも地域の皆さまに安心と信頼をお届けできるよう、職員一同力を合わせて歩んでまいりたいと思ひますので、何卒よろしくお祈り申し上げます。



西宮渡辺心臓脳・血管センター 副院長 兼 循環器内科部長 山根 崇史

西宮渡辺病院開院60周年、西宮渡辺心臓脳・血管センター開院20周年、ならびに社会医療法人認可15周年、誠にありがとうございます。この節目の年を迎えられましたのも、地域医療への深い献身と、高度な医療の提供を続けてこられた努力の賜物と思ひます。心臓・脳血管という命に直結する分野において、先進的な医療が地域に根ざしていることは、多くの方々にとって大きな安心であり希望です。今後ますますのご発展と、皆様のご健勝をお祈り申し上げ、祝辞といたします。



西宮渡辺心臓脳・血管センター 漏斗胸治療センター センター長 植村 貞繁

この度は先代理事長、渡邊高先生が西宮に病院を開設して60年という節目になり、同時に心臓脳・血管センター開院20周年となりました。長きにわたり西宮の医療の要として、住民の皆様の健康と安心を支えてきたことに、深く敬意を表し、心よりお祝い申し上げます。私は20数年前に渡邊高先生にお声かけいただき、法人の理事を拝命しました。5年前からは心臓脳・血管センターで漏斗胸の専門的治療を行っております。私はこの20年間、社会医療法人 渡邊高記念会が毎年進歩発展している様子を見てきておりますが、一度も停滞することなく、事業は拡大し続けております。コロナの危機も見事に克服し、最近の医療経済の悪化、物価高など多くの困難にもしっかりと対応しております。それも偏に佐々木理事長のリーダーシップと先見の明によるものと思ひます。同時に、法人全体のスタッフの絶え間ない努力が実った結果と思ひます。これからも社会医療法人 渡邊高記念会が西宮地域の医療発展のために大きな力となることを確信しております。私も微力ながら力を尽くしていきたいと考えております。



西宮渡辺心臓脳・血管センター 東灘クリニック 管理者 兼 院長 山室 淳

西宮渡辺心臓脳・血管センター開院20周年おめでとうございます。2012年に、私は西宮渡辺心臓脳・血管センターへ赴任いたしました。異動前は、神戸市立医療センター中央市民病院で心臓カテーテル・CCU室長、救急部副部長と現場の中心として働いておりました。海外での学会発表、論文・教科書の作成など多岐に忙しい日々を過ごしておりました。2012年時の西宮渡辺心臓脳・血管センター院長が、私の専攻医時代循環器部長で大切な恩師です。その吉川純一先生からもう一度、一緒に働いて西宮に循環器センターを立ち上げようと声をかけていただき感激したことを思い出します。現在、私は東灘区の分院で循環器クリニック院長を務めております。また、神戸市東灘区医師会の医療安全対策部理事に選任いただき、忙しい日々を過ごしております。これからも病院間の連携をはかり法人本部に役立てるように努めます。